

■小杉樞郎 国文学者。幕末に尊皇論を唱え、維新後の文明開化のなか、国文学界を先導した。

こすぎすぎむら

高島砲術・1834= 阿波国徳島の代々蜂須賀家の陪臣で、和漢の学に通じ和歌でも名をなした小杉明真の子に生まれる。

大塩平八郎乱1837= 3歳：

幼時より、読書・書道を好み、父から詠歌・物語・草子などを学ぶ一方、

園芸に特別の興味を持って、杉の産地を識別するのに巧みであった。

順天堂始・1843= 9歳：

阿部正弘首座1845=11歳：藩の寺島学問所に入り、漢学・経史を学ぶ。

・・・・1848=14歳：元服して、西尾志摩に仕え、

尊徳報徳論・1851=17歳：上田元疆から歌道の指導を受ける。

万次郎帰国・1852=18歳：

ペリー来航・1853=19歳：〈ペリー来航〉で、国論が沸騰するなか、

開国開港・1854=20歳：江戸詰となった西尾氏に従い、天下の情勢を知るとともに、神典・歴史の重要性を痛感、

安政大地震・1855=21歳：一旦帰藩後、

蕃書調所・1857=23歳：江戸赤坂紀伊藩邸内の古学館に入門、多くの俊秀と親交、

五ヶ国条約・1858=24歳：帰藩後も、本居内遠の門人らと往来、

尊皇論が高まって国内情勢が切迫してきたため、

桜田門外変・1860=26歳：

遣欧使節・1861=27歳：

生麦事件・1862=28歳：再び江戸に出る西尾氏に従い、藩主が將軍家の出で佐幕派の多いなか、尊皇論を主張したため、

8月18日政変 1863=29歳：西尾氏邸内に幽閉された。

禁門の変・1864=30歳：幽囚を解かれて謹慎となり、古文書考証の編述に従事するうち、

薩摩藩士密航1865=31歳：謹慎も解かれたが、城外居住とされて郊外に仮寓、樞郎と号して寺子屋を開くとともに、茶会・画会・詩歌

会を楽しみ、結婚もして苦悶するうち、

大政奉還・1867=33歳：〈大政奉還〉となって、ついに自由の身となり、徳島城下に戻り、西尾家に再び出仕した。

明治維新・1868=34歳：

戊辰戦争終・1869=35歳：

*新藩主が設立した文武学校に寺島学問所・洋学医学校を合併した〔長久館〕の助教に迎えられ、さらに神祇

官に宣教使が置かれて出仕、

初の日刊新聞1870=36歳：徳島藩庁より阿波国統風土記編纂掛兼務を任じられ、

廃藩置県・1871=37歳：〈廃藩置県〉後、知事職掌の文案起草、

学問のすすめ1872=38歳：名東県少属に任じられたのち、「阿波古風土記名蹟考」が成った。

明治6年政変 1873=39歳：名東県権大属から大麻神社宮司兼務、

佐賀の乱・1874=40歳：*教部省に呼ばれ上京、社寺掛から権中録考証課専務となる間、「阿波国遺存古文書考証」などを脱稿、

西南戦争・1877=43歳：教部省廃止で、内務省社寺局専務となる。「古語拾遺略注」「土佐日記補注」をまとめる。

大久保暗殺・1878=44歳：修史館に異動、

沖縄県編入・1879=45歳：

明治14年政変1881=47歳：文部省に移って、西村茂樹の建議で既に着手されていた「古事類苑」の編纂に従事、

新体詩抄・1882=48歳：東京大学御用掛兼務となって古典講習科講師となり、佐佐木信綱らを指導。

この間、福羽美静らが国粹保存の目的で設立した〔好古社〕の雑誌に次々投稿、

帝国大学始・1886=52歳：*非職となると、同志と国粹主義の〔大八洲会〕を設立、雑誌を発刊して研究普及に努める。

初の対等条約1888=54歳：

帝国憲法発布1889=55歳：_皇室博物館歴史部履から、

帝国議会始・1890=56歳：_同技手、全国宝物取調局勤となって、各地に出張する一方、三条実美らと〔難波津会〕を設立、

この間、「法隆寺金堂建築壁画考証」「上古金石考証」などをまとめる。

日清戦争始・1894=60歳：東京美術学校で書学の沿革を講義、

日清戦争終・1895=61歳：日本古来の風俗・文物などを研究するため、有志と〔考古学会〕を設立、

白馬会・1896=62歳：機関誌を発行、

八幡製鉄始・1897=63歳：_4年かかった「大日本美術史料」を脱稿。

子規句歌革新1898=64歳：御歌所に召され、以後、毎月の歌会にかかきず出席、

Bushidou・1899=65歳：パリ万国博覧会出品監査委員、東京美術学校教授・東京帝国大学講師となる。創立された〔日本歴史地理学

会〕の顧問に迎えられ、

ピアノ国産化・1900=66歳：福地源一郎・幸田露伴・佐佐木信綱らが発刊した〔古今文学〕の長歌を担当、

田中正造直訴1901=67歳：_文学博士。国語伝習所講師、

教科書疑獄・1902=68歳：日本女子大学教授。

日露戦争終・1905=71歳：

満鉄発足・1906=72歳：私立大成中学校長。

韓国反日暴動1907=73歳：犬養毅・徳富蘇峰らと発起して〔読書会〕という書の会を設立、

アヲホ創刊・1908=74歳：東京裁縫女学校教授として日本服装史を講じ、国学院講師となるも、*健康を害し、

伊藤博文暗殺1909=75歳：妻を失ってからには、静養する身となり、

韓国併合・1910=76歳：新年歌会始の奉行を務めた後、病床に就き、まもなく_没した。